

陶芸家三輪壽雪の世界

やまぎん史料館では、このたび一階展示室・萩焼コーナーのリニューアルを行いました。

平成20年11月の当館オープン以来、初となる大規模リニューアルであり、三輪壽雪氏(人間国宝第11代三輪休雪)の名作展示により、壽雪氏独自の造形美を紹介いたします。

特に壽雪芸術を顕著に表しているのが「鬼萩(おにはぎ)」の名を冠した一連の割高台茶碗であり、作家自身によって日本海の怒涛逆巻く情景などに喩えられる大器は、茶碗を超越した斬新な造形として評価されてきました。

会場では、当館にて所蔵する壽雪氏作鬼萩茶碗の数々を公開しておりますので、皆様のご来館を心よりお待ちしております。壽雪芸術をご堪能下さい。

〈三輪壽雪氏陶歴〉

1910年	山口県萩市椿東に生まれる	1983年	重要無形文化財「萩焼」保持者(人間国宝)に認定
1955年	陶号を「休」と称し作家活動を開始	1990年	勲四等旭日小綬章綬章
1960年	日本工芸会正会員となる	2003年	壽雪と号を改め、長男龍作が十二代休雪を襲名
1967年	兄十代休雪隠居後、十一代休雪を襲名	2012年	老衰のため死去。享年102歳
1976年	紫綬褒章受章		
1982年	勲四等瑞宝章受章		

